



実用新案登録願(1)

(¥ 4,000)

特許庁長官 川原能 雄

昭 和

殿

Ħ

1. 考案の名称

ハンドル位置調整機構

2.考 案 者

住所

三菱自動車』於陸大區的第二自動車製作所用**綺工場內**

カワシマチョウジ川 島 長 次 氏名

3. 実用新案登録出願人

住所 、 東京都港区2000年6号

(628) 三菱自動車工業株式会社

代表者 曽 根 嘉 年

4.代 理 人

豆京都港区芝几丁目33至8号 三菱自動車工業株式会社內

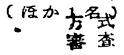
(6528) 廣 渡 禧 彰 (ほか)名)

5. 復代理人 〒100 東京都千代田区有栥町1丁目8番1号

日比谷パークビルデング503号 (電214-1477)....

E 12360 正 (5166) 木 村

55 089292





明 細 書

1. 考案の名称

ハンドル位置調整機構

2. 実用新案登録請求の範囲

2つの自在継手を有しステアリングギャに連結されたステアリングシャフトのアッパシャフトを 上方の上記自在継手のヨークにスプライン結合し、 ハンドルを上下方向に調整可能にしたことを特徴 とするハンドル位置調整機構。

3. 考案の詳細な説明

本考案は自動車用ステアリング装置のハンドル位置調整機構に関するものである。

従来、トラック用等のステアリング装置においては、ハンドル及びステアリングギヤの取付けるスプリング・ルは2つの自在継手を有するステアリング・シャフトを介してステアリングで置をできるようにするため、通常ステアリンで発をものアッパシャフトを収容するケースの下後をキャプフレームに核支させてハンドルを前後方

向に変位できるようにし、ロアシャは上記変位を許容するためその長さが僅かに変化できるようにスプライン結合さいてない。 このロアシャフトと自在継手とのなどできるできると、ロアシャフトを利力の位置をできるが大きのの長さが大きまる。 を利用していると、ロアシャフトの長さが大きまるようにすると、ロアシャフトの表されたアフトのように対するのように対する。 形性が損なわれ、操舵安定性が低下する。

本考案は、上記不具合を解消するため、2つの 自在継手を有しステアリングギャに連結されたス テアリングシャフトのアッパシャフトを上方の上 記自在継手のヨークにスプライン結合し、ハンド ルを上下方向に調整可能にしたことを特徴とする ハンドル位置調整機構を提案するものである。

以下、本考案の実施例を忝付図面を参照して詳細に説明する。

第1図及び第2図において、ステアリング装置は、ハンドル1と上方の自在継手2を連結するアッパシャフト3及び自在継手2とステアリングギ

ヤに連結された下方の自在継手(図示しない)を連結するロアシャフト4から成るステアリングシャフトを有する。

ハンドル1を上下方向及び前後方向に調整でき るようにするため、アッパシャフト2の端部はス プライン 6 によつて上方の自在継手2のヨーク 5 内に軸方向に摺動自在に結合されている。アッパ シャフト2を収容するケースは互いに抜差し自在 に配置されたインナケース7とアウタケース8か ら成り、インナケース7は自在継手のヨーク5ト にベアリング9を介して装架され、アウタケース 8 はアッパシャフト 2 上にベアリング(図示しな い)を介して装架されている。プラケット10が インナケース1に固定され、キャプフレームに固 定されたプラケット11にピン12によつて枢着 されている。プラケット13がアウタケース8に 固定され、キャブフレームに固定されたプラケッ ト14に枢着されているリンク15に連結されて いる。リンク15内には細長いスロット16が形 成されており、ブラケット13とスロット16を

貫通するポルト及びナットなどのような適当な固定装置17がプラケット13とリンク15を所望の位置に固定する。

ハンドル1を上下方向に調整する場合、固定装置17を緩めてハンドルを上下方向に動かすと、 プラケット13と14に対して回転可能なリンク 15、アッパシヤフト2と自在継手3のヨーク5 とのスプライン結合及びインナとアウタケース7 と8の抜差し自在な構造により、アウタケース8とアッパシャフト2がそれぞれインナケース7とヨーク5に対して軸方向に一体的に移動する。その後、固定装置17を締めつけることにより、ハンドルは所望の上下方向に調整された位置に固定される。

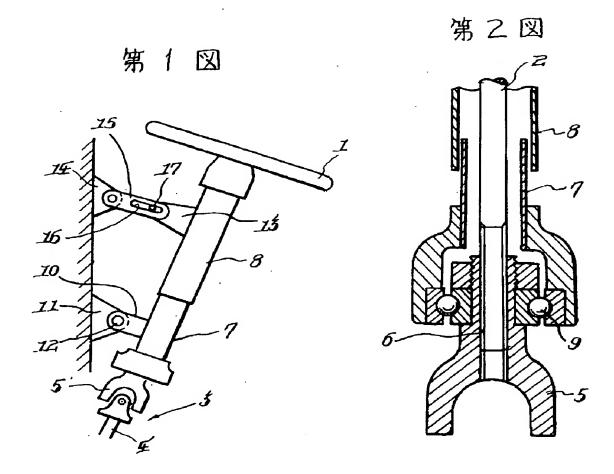
なお、ハンドルの前後方向及び上下方向の調整 を同時に行うことができることはもちろんである。

上述したような本考案によるステアリング装置のハンドル位置調整機構では、実質的にアッパ下のマスト2の長さを変化させてハントののでは、からの位置を変化さらになっているのである。とからである。となっているのでは、ハンドル回転角に対するとなっているののステリング角の線形性が損なわれるである。操舵安定性が常に良好に維持できるものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案によるハンドル位置調整機構を 備えたステアリング装置の概略側面図、第2図は

第 1 図のステアリング装置の部分断面図である。 1 ・・ハンドル、2・・アッパシャフト、5・ ・・ヨーク、6・・スプライン、7・・インナケ ース、8・・アウタケース、10,11,13,14 ・・プラケット、15・・リンク。



6. 添附書類の目録

(1) 委 任 状

. (2) 復代理委任状

· (3) 明 細 書

/(4) 図 面

(5) 願書副本

1 通

1 通

1 通

1 通

1 通

- 7. 前記以外の考案者、実用新案登録出願人または代理人、復代理人
 - ⑴ 代 理 人

東京都港区芝茄丁目53番5号 三菱自動車工業株式会社內

(6627) 日 昔 吉 武

(2) 復代理人

〒100 東京福千代田区有楽町1丁目8番1号 日比谷パークビルヂング503号(電214―1477)

(7681) 高 野 龍 馬